

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 平成26年度計画

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規定により、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所中期計画に基づき、平成26年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 特別支援教育に係る実際の・総合的研究の推進による国の政策立案・施策推進等への寄与及び教育現場への貢献

(1) 国の政策課題及び教育現場のニーズ等に対応した研究の推進

① 特別支援教育のナショナルセンターとしての役割を踏まえた、国の政策的課題や教育現場の課題に対応した研究に一層精選、重点化して実施し、障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に貢献する。

イ 国として特別支援教育政策上重要性の高い課題に対する研究

教育制度・システムに関する調査・研究、先導的な指導方法の開発に係る研究など、国として特別支援教育政策上重要性の高い課題に対する研究を実施する。

ロ 教育現場等で求められている喫緊の課題に対応した実際研究

障害のある子どもの教育内容・方法等に関する調査・開発研究など、教育現場等で求められている喫緊の課題に対応した実際研究を実施する。

ハ 研究の実施に当たっては、研究の性質による次の区分を設けて実施する。

i) 基幹研究 研究所が主体となって実施する研究で、運営費交付金を主たる財源とするもの

その内容により、以下の通り区分する。

専門研究 A：特定の障害種別によらない総合的課題、障害種別共通の課題に対応した研究

専門研究 B：障害種別専門分野の課題に対応した研究

上記の他、専門研究 A、専門研究 B につなげることを目指して実施する予備的、準備的研究を実施する。

また、①インクルーシブ教育システムに関する研究、②特別支援教育における ICT の活用に関する研究、に係る研究課題については、中期特定研究課題制度（1（1）②ニ参照）の枠組の下で研究に取り組む。

ii) 外部資金研究：科学研究費等の外部資金を獲得して行う研究

iii) 受託研究：外部から委託を受けて行う研究

iv) 共同研究：本研究所と大学や民間などの研究機関等と共同で行う研究

ニ 平成26年度に基幹研究を次のとおり実施する。

i) 平成25年度からの継続研究

(専門研究 A)

・インクルーシブ教育システム構築に向けた取組を支える体制づくりに関する実際研究—モデル事業等における学校や地域等の実践を通じて—（平成25年度～平成26年度）
(中期特定研究)

(専門研究 B)

・知的障害教育における組織的・体系的な学習評価の促進を促す方策に関する研究—特別支援学校（知的障害）の実践事例を踏まえた検討を通じて—（平成25年度～平成26

年度)

- ・ 重度・重複障害のある子どもの実態把握、教育目標・内容の設定、及び評価等に資する情報パッケージの開発研究（平成25年度～平成26年度）

ii) 平成26年度からの新規研究

(専門研究 A)

- ・ 今後の特別支援教育の進展に資する特別支援学校及び特別支援学級における教育課程に関する実際研究（平成26年度～平成27年度）
- ・ 障害のある児童生徒のための ICT 活用に関する総合的な研究－学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理－（平成26年度～平成27年度）（中期特定研究）

(専門研究 B)

- ・ 視覚障害のある児童生徒のための教科書デジタルデータの活用及びデジタル教科書の在り方に関する研究－我が国における現状と課題の整理と諸外国の状況調査を踏まえて－（平成26年度～平成27年度）（中期特定研究）
- ・ 聴覚障害教育における教科指導及び自立活動の充実に関する実践的研究－教材活用の視点から専門性の継承と共有を目指して－（平成26年度～平成27年度）
- ・ 小・中学校に在籍する肢体不自由児の指導のための特別支援学校のセンター的機能の活用に関する研究－小・中学校側のニーズを踏まえて－（平成26年度～平成27年度）
- ・ 病弱・身体虚弱教育における教育的ニーズとそれに応じた教育的配慮に関する研究－慢性疾患のある児童生徒への教育的配慮に関する質的分析から－（平成26年度～平成27年度）
- ・ 特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の自立活動の指導に関する研究（平成26年度～平成27年度）
- ・ 発達障害のある子どもの指導の場・支援の実態と今後の在り方に関する研究－通級による指導等に関する調査をもとに－（平成26年度～平成27年度）

② 研究計画を策定し研究体制の整備を進める。

イ 平成24年2月に改訂した研究基本計画に基づいて、様々な研究ニーズを見極めつつ、研究活動を展開する。

ロ 研究を戦略的かつ体系的に実施するための研究班を整備する。

ハ 研究成果を教育現場等に迅速に還元するため、研究課題については、その必要性、研究内容等について見直しを行う。また、原則として、2年を年限として研究成果をまとめる。

ニ 平成23年度に創設した中期特定研究制度に基づき、特別支援教育全体に関わる重点的な課題である次の研究テーマを総合的に解決するための研究を実施する。

[研究テーマ1]

インクルーシブ教育システムに関する研究（平成23年度～27年度）

[研究テーマ2]

特別支援教育におけるICTの活用に関する研究（平成23年度～27年度）

③ 研究課題の精選・採択や研究計画・内容の改善を図るため、都道府県教育委員会や特別支援教育センター、学校長会等に対して研究ニーズ調査を実施する。また、研究計画を立案する段階において研究成果の現場への効果的普及の方策について特に留意する。

(2) 評価システムの充実による研究の質の向上

① 研究課題の精選・採択や研究計画・内容の改善を図るため、研究の事前評価として、毎年度、都道府県教育委員会や特別支援教育センター、学校長会等に対しての研究ニーズ調査をする。

② 各研究課題について、国の政策課題や教育現場の課題への貢献等の観点から、中間及び終了時における内部評価及び外部評価を実施する。また、評価システムについては不断の見直しを行う。

- ③ ウェブサイトを活用し研究計画の事前・中間・事後において、教育現場をはじめ広く国民からタイムリーな意見や情報の収集を実施する評価システムを運用する。
- ④ 中期特定研究制度について、平成23年度に構築した評価システムに基づき、中間評価を進める。

(3) 学校長会、保護者団体、大学等の関係機関等との連携・協力体制の強化による実際的で総合的な研究の推進

- ① 相互の課題認識・研究方法・研究資源などを学校長会、保護者等の関係機関等と共有することにより、実際的、効率的かつ効果的に研究を実施する。
 - イ 平成23年度に統合した新たな研究協力者及び研究協力機関制度を実施する。
 - ロ 全国特別支援学校長会及び全国特別支援学級設置学校長協会と連携し、学校現場の実態等を適切に把握するための共同調査を実施する。
 - ハ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校の全国校（園）長会と特別支援教育に関する情報交換を実施する。
 - ニ 全国特別支援教育推進連盟及びその加盟団体と連携を図り、教育課題等を把握し研究の進展を図る。
 - ホ 国立障害者リハビリテーションセンターとの連携を一層推進する。
- ② 大学などの基礎的研究と研究所の実際的研究との有機的な連携や筑波大学附属久里浜特別支援学校との連携を図ることにより、研究の質的向上を図る。
 - イ 大学や民間などの研究機関等との「共同研究」を実施する。
 - ロ 自閉症教育に係る研究について、筑波大学附属久里浜特別支援学校と相互連携協力を行う。
- ③ 特別支援教育に関する協議及び情報交換等を行うために、海外の研究機関等との研究交流を行うとともに、シンポジウム等を開催する。

2 各都道府県等における特別支援教育政策や教育研究及び教育実践等の推進に寄与する指導者の養成

(1) 各障害種別に対応する指導者の専門性の向上

- ① 各都道府県等の障害種別毎の教育の中核となる教職員を対象に、障害種別毎にコースを設け、研究成果等の普及等を目的とした専門的かつ技術的な講義・演習・研究協議等を通して、その専門性と指導力の向上を図り、各都道府県等の教育実践の充実を図るための「特別支援教育専門研修」（約2か月の研修期間）を次の通り実施する。
 - （第一期）視覚障害・聴覚障害教育コース
募集人員：40名
実施期間：平成26年5月8日～平成26年7月9日
 - （第二期）発達障害・情緒障害・言語障害教育コース
募集人員：80名
実施期間：平成26年9月2日～平成26年11月7日
 - （第三期）知的障害・肢体不自由・病弱教育コース
募集人員：80名
実施期間：平成27年1月8日～平成27年3月13日募集人員計：200名
- ② 研修の実施については、次の事項に留意する。
 - イ 事前学習用コンテンツを使用し、研究所ウェブサイトからインターネットを通じた視聴を指示し、研修開始に当たっての共通理解の促進を図る。
 - ロ 研究協議等の演習形式を多く取り入れたプログラムを実施するとともに、受講者が受講した内容を実際の業務や活動の中でいかせるものとなるよう逐次カリキュラム等の見直しを行

う。

ハ 受講者に対して、研修成果の還元に関する事前計画書等の作成・提出を求めるとともに、修了直後及び修了後1年後を目途として、研修の内容・方法等についてアンケート調査を実施し、平均85%以上の有意義であったとのプラス評価を確保する。仮に、85%を下回った場合には、研修の内容・方法等を改善する。

(修了後1年後のアンケート調査の実施予定)

平成26年度受講者については、28年1~2月

ニ 受講者の任命権者である教育委員会等に対し、研修成果の還元に関する事前計画書等の作成・提出を求めるとともに、修了後1年後を目途として、研修内容・方法等の充実を図るためのアンケート調査を実施し、80%以上の受講者が、各地域で行う研修、研究会等の企画・立案及び研修の講師として指導的な役割を担っているという結果などプラスの評価を確保する。仮に、80%を下回った場合には、研修の内容・方法等を改善する。

(修了後1年後のアンケート調査の実施予定)

平成26年度受講者については、28年1~2月

ホ 研究所が設定する受講者数に対する実際の受講者の参加率が、毎事業年度平均で85%以上となるようにする。年間の研修計画立案に際し、各都道府県教育委員会等に対してニーズ調査を行い募集人員決定の参考とする。受講者の参加率が、毎事業年度平均で85%を下回った場合には、受講者数の見直し等、必要な措置を講じる。

ヘ 研修の各期の修了者に対して、インターネットを活用し、最新の特別支援教育情報などの提供を行う。

(2) 国の重要な特別支援教育政策や教育現場の喫緊の課題等に対応する指導者の養成

① 上記以外に実施している各種の研究協議会については、各都道府県等において指導的立場に立つ指導主事や教職員を対象として、特別支援教育に係る研究成果等の普及を目的とした特別支援教育のナショナルセンターにふさわしい特別支援教育政策上や教育現場等の喫緊の課題に対応した専門的かつ技術的な研修(各2日間の研修期間)を次のとおり重点化して実施する。

イ 就学相談・支援担当者研究協議会

実施期間：平成26年7月17日~平成26年7月18日

募集人員：70名

ロ 特別支援学校寄宿舎指導実践指導者研究協議会

実施期間：平成26年7月24日~平成26年7月25日

募集人員：70名

ハ 発達障害教育指導者研究協議会

実施期間：平成26年7月31日~平成26年8月1日

募集人員：100名

ニ 交流及び共同学習推進指導者研究協議会

実施期間：平成26年11月20日~平成26年11月21日

募集人員：70名

② これらの研修の実施については、次の事項に留意する。

イ 地方公共団体における同種の研修の実施実態を把握し、研修の必要性、研修内容等について逐次見直しを実施する。

ロ 研修毎に、受講者に対して、修了直後及び修了後1年後を目途として、研修の内容・方法等についてアンケート調査を実施し、平均85%以上の有意義であったとのプラス評価を確保する。仮に、85%を下回った場合には、研修の内容・方法等を改善する。

(修了後1年後のアンケート調査の実施予定)

平成26年度受講者については、28年1~2月

ハ 研修毎に、受講者の任命権者である教育委員会等に対し、修了後1年後を目途として、研修内容・方法等の充実を図るためのアンケート調査を実施し、80%以上の受講者が、各地域で行う研修、研究会等の企画・立案及び研修の講師として指導的な役割を担っているという結果などプラスの評価を確保する。仮に、80%を下回った場合には、研修の内容・方法等を改善する。

(修了後1年後のアンケート調査の実施予定)

平成26年度受講者については、28年1~2月

ニ 研究所が設定する受講者数に対する実際の受講者の参加率が、毎事業年度平均で85%以上となるようにする。仮に、受講者の参加率が、毎事業年度平均で85%を下回った場合には、受講者数の見直し等、必要な措置を講じる。

ホ 各研修の修了者に対して、インターネットを活用し、最新の特別支援教育情報などの提供を行う。

(3) 各都道府県等が実施する研修に対する支援

① 各都道府県等において、障害のある児童・生徒等の教育に携わる教員の資質向上を図る取組を支援するため、基礎的な内容及び専門的な内容に係る講義を収録し、インターネットにより学校教育関係機関等へ配信する。

また、配信する研修コンテンツについては、体系的・計画的な整備・充実を図るとともに、利用者のアンケート調査等をもとに、内容及び運用の改善を図る。

② 都道府県教育委員会・特別支援教育センター等が実施する研修会等へ、実施機関からの要請に応じ、講師派遣基準に基づき適切な範囲で講師を派遣し、各都道府県等を支援する。

3 各都道府県等における特別支援教育推進のための教育相談機能の質的向上に対する支援と教育相談活動の実施

(1) 各都道府県等における特別支援教育推進のための教育相談機能の質的向上に対する支援

① 教育相談実施機関の自己解決力の向上を推進

障害のある子どもの教育に関するコンサルテーションを実施する。実施に当たっては、教育相談実施機関に対して有用度アンケートを実施し、80%以上から有用であるという結果などプラスの評価を得る。

また、コンサルテーションが機関の自己解決力の向上につながったという評価を得る。

② 各都道府県等における教育相談機能等の質の向上に資する情報提供の充実

イ 各地方自治体が行う教育相談の円滑な遂行に資するため、教育委員会、教育センター、特別支援教育センター及びセンター的機能を担う特別支援学校の利用に供するための、教育相談情報提供システム(教育相談に関する基本情報ガイド及び事例データベース)の整備を進める。

また、教育相談情報提供システムの利活用状況の評価を行い、必要に応じて運用を見直す。

特に教育相談情報提供システムの整備に当たっては、研究所が行う(2)①の教育相談事例及びこれ以外に研究所が収集する事例のほか、全国の教育センター、特別支援教育センター等との連携により教育相談に関する事例情報やニーズ等を収集する。

ロ 日本人学校等への支援を充実する。

(2) 各都道府県等では対応が困難な教育相談等の実施

① 研究所においては、次の教育相談を実施する。

イ 発生頻度の低い障害等の各都道府県等では対応が困難な事例に関する教育相談

ロ 国外に在住する日本人学校等の保護者等からの教育相談

ハ 上記①イ~ロの教育相談については、満足度アンケートを実施し、80%以上の満足度を

確保する。

② 教育相談事例の研究

研究所で行う教育相談、コンサルテーションの内、特別支援教育の研究の進展を図るために必要と判断するものを教育相談事例として研究を進める。

4 特別支援教育に関する総合的な情報提供体制を充実し、研究者・教職員等の研究や専門性、指導力の向上及び保護者等に必要な知識等を提供

(1) 研究成果の普及促進等

- ① 研究成果については、国の行政施策の企画立案・実施に寄与するよう国へ提供する。
- ② 研究活動等の成果の普及や質の向上、教育現場等関係機関との情報の共有を図るため、研究所セミナーを開催するとともに、学会発表等により成果の普及を図る。
 - イ 研究成果の普及を図るため、研究協議等参加型の方法を中心としたプログラムによる研究所セミナーを開催する。
 - また、参加者定員の90%以上の充足率を確保するとともに、参加者85%以上の満足度を確保する。
 - ロ 研究成果を学会等における口頭又は誌上において100件以上発表する。
- ③ 研究成果である報告書等を刊行し、ウェブサイトへ掲載する。
 - イ 研究紀要第42巻を刊行する。
 - ロ 終了する研究課題については研究成果報告書を刊行するとともに、必要に応じて、研究中間報告書を刊行する。
 - ハ 重要な研究成果については、教育現場で活用しやすいようにガイドブックやマニュアル等としてまとめ、提供する。
 - ニ 教材・教具を試作した場合は、これを公開する。
- ④ 都道府県教育委員会・特別支援教育センター等が実施する研修会等への講師の派遣及び大学教育への参画を通して研究成果を普及する。

(2) 特別支援教育に関する情報の収集・蓄積・提供や理解啓発活動

- ① インターネットを活用し、ナショナルセンターとして特別支援教育に関する情報提供、理解啓発活動を行う。
 - イ 研究所のウェブサイトユーザビリティ及びアクセシビリティに配慮し、特別支援教育に関する情報を提供する。
 - ロ 発達障害教育にかかわる教員及び保護者をはじめとする関係者を支援するためインターネットを活用しウェブサイトから情報提供を行う。また、発達障害についての理解啓発活動を行う。
 - ハ インクルーシブ教育システム構築支援データベースにおいて、「合理的配慮」に係る実践事例について検索するシステムを稼働させるとともに、一層の内容の充実を図る。
 - ニ 障害の状態や特性等に応じた教材、支援機器等を活用した様々な取組の情報をデータベース化し、特別支援教育関係教材等のポータルサイトを稼働する。
 - ホ 国立特別支援教育総合研究所ジャーナル及び NISE Bulletin をインターネットを活用しウェブサイトから情報提供を行う。
 - ヘ メールマガジンを月1回の割合で配信し、特別支援教育に関する情報を提供する。
- ② 特別支援教育のナショナルセンターとして、特別支援教育に係る研究資料、図書等を収集・蓄積する。またニーズに対応した情報提供を行う。
 - イ 大学における研究成果も含めた特別支援教育に関する国内外の図書・資料等（とりわけ実践研究の論文・資料）を収集・蓄積する。
 - ロ 利用者のニーズに対応した情報提供を行う。来所する利用者に対して、特別支援教育に係

る情報を入手できたかどうかアンケート調査を行い、85%以上の満足度を確保する。

ハ 研究所の所有する特別支援教育関係文献目録、特別支援教育実践研究課題、所蔵雑誌・資料等、所蔵図書目録に関する情報のデータベースを運用する。

また、データベースアクセス件数を年間500,000件以上確保する。

③ 関係団体と連携し特別支援教育関係情報の普及を図る。

イ 世界自閉症啓発デーに対応したシンポジウムとして、以下のとおり「世界自閉症啓発デー2014in 横須賀」を開催する。

主催：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、筑波大学附属久里浜特別支援学校

共催：横須賀地区自閉症児・者親の会「たんぼぼの会」、筑波大学附属久里浜特別支援学校PTA

ロ 特別支援学校長等を対象としたネットワーク構築について、全国特別支援学校長会との情報普及を行う。

ハ 小学校・中学校等の教員等を対象とした情報提供システムの構築に向けて関係団体と協議する。

④ 海外の特別支援教育に関する情報の収集・提供

イ 特別支援教育に関する諸外国の情報を計画的・組織的に収集するとともに国内の情報や諸外国の情報を国内外に提供する。

ロ 国立特別支援教育総合研究所ジャーナル及びNISE Bulletin をインターネットを活用しウェブサイトから情報提供を行う。

⑤ 特別支援教育の領域において、特に顕著な功績のあった者や、特に優秀な研究を行い特別支援教育の向上に著しく寄与した者を顕彰する。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 管理部門の簡素化、効率的な運営体制の確保、アウトソーシングの活用等により業務運営コストを縮減することとし、一般管理費については、経費縮減の余地がないか自己評価を厳格に行った上で、適切に見直しを行う。

退職手当及び特殊要因経費を除き、対前年度比一般管理費3%以上、業務経費1%以上の業務の効率化を図る。

さらに業務の質の維持・向上及び経費の削減の一層の推進のため官民競争入札等の導入を検討する。

(2) 契約については、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成21年11月17日閣議決定）に基づき、監事及び外部有識者によって構成する契約監視委員会により、次の観点から、点検・見直しを行い、契約の適正化を推進し、業務運営の効率化を図る。また、締結された契約についての改善状況をフォローアップし、公表する。

(点検・見直しを行う観点)

・競争性のない随意契約を継続しているものについて、随意契約事由が妥当であるか、契約価格が他の取引実例等に照らして妥当となっているか。

・競争性のない随意契約から一般競争入札等への移行を予定しているものの前倒しが検討できないか。

・契約が一般競争入札等による場合であっても、真に競争性が確保されているといえるか。

(3) 給与水準については、国家公務員の給与水準を十分配慮し、手当を含め役職員給与の在り方について厳しく検証した上で、業務の特殊性を踏まえた適正な目標水準・目標期限を設定し、その適正化に取り組むとともに、検証結果や取組状況を公表する。並びに国家公務員に関する給与関係法及び人事院規則等も踏まえ、引き続き国家公務員と同等の給与見直しを

行う

(4) 内部統制態勢及び監事監査態勢の現状評価を行い、その評価結果を踏まえ内部統制態勢及び監事監査態勢の向上を図ることにより、不祥事などの不確実性の低減化、契約の監視の厳正化及び業務の効率化の確実な達成を図る。

(5) 「第2次情報セキュリティ基本計画」(平成21年2月3日内閣官房の情報セキュリティ政策会議策定)等の政府の方針を踏まえ、適切な情報セキュリティ対策を推進するとともに、職員に対して引き続き、研修を実施する。

(6) 「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」(平成25年12月24日閣議決定)に基づき、他の法人と間接業務等を共同で実施すべく検討を行い、平成26年夏までに結論を得て、順次実行する。

また、研修員宿泊棟については、稼働率の向上や自己収入の拡大及び民間委託の更なる活用等、管理・運営コストの削減を図るための必要な措置を検討する。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

(1) 平成26年度予算

収入	985,470千円
運営費交付金	980,880千円
人件費	644,327千円
一般管理費	47,722千円
業務経費	288,831千円
研究活動	97,249千円
研修事業	13,105千円
教育相談支援	1,302千円
情報普及	171,861千円
国際交流	5,314千円
自己収入	4,590千円
支出	958,470千円
運営費事業	985,470千円
人件費	644,327千円
業務経費	341,143千円

(2) 平成26年度収支計画

費用の部	985,470千円
収益の部	985,470千円

(3) 平成26年度資金計画

資金支出	958,470千円
業務活動による支出	939,020千円
投資活動による支出	19,450千円
資金収入	958,470千円
業務活動による収入	939,020千円
投資活動による収入	19,450千円

IV 短期借入金の限度額

限度額 3 億円

短期借入金が想定される事態として、運営費交付金の受入れが遅延する場合や予想外の退職手当などに対応する場合を想定。

V 重要な財産の処分等に関する事項

財産については、その保有の必要性について不断の見直しを行う。

VI 外部資金導入の推進

関係機関、民間企業等から広報面、資金面で可能な限り協力が得られるよう積極的に働きかけるとともに、研究のより一層の充実のため、競争的資金の獲得に努める。

また、事業の目的を踏まえつつ、受益者負担の適正化、寄附金等による自己収入の確保に努める。

自己収入の目標額：12,700千円

VII 剰余金の使途

研究の高度化・高品質化のための経費に充当する。

VIII その他主務省令で定める業務運営に関する事項

(1) 筑波大学附属久里浜特別支援学校との連携

筑波大学附属久里浜特別支援学校と自閉症児の教育に関する指導方法・内容等についての実際的な研究や共同事業などを相互の連携・協力により行う。

(2) 施設・設備に関する計画

研究活動、研修事業、教育相談活動及び情報普及活動を安全、かつ、円滑で効率的に実施できるような環境を確保するとともに、障害者や高齢者をはじめ、広く一般の方々が来所しやすい施設・設備の整備を図る。また、生涯学習の観点から施設の一般公開を更に推進する。

(平成26年度の施設整備予定)

防水改修工事

(平成26年度研究所公開)

平成26年11月8日

(3) 人事に関する計画

① 方針

研究活動、研修事業、教育相談活動及び情報普及活動を効率的に行うため、適正に人員を配置する。

② 人員に係る指標

常勤職員については、その職員数の抑制を図り、適切な数となるよう努める。

③ その他

・客員研究員等を任命し、研究活動の活性化を図る。

・教育委員会、大学等との人事交流により、必要な人員の確保に務める。